

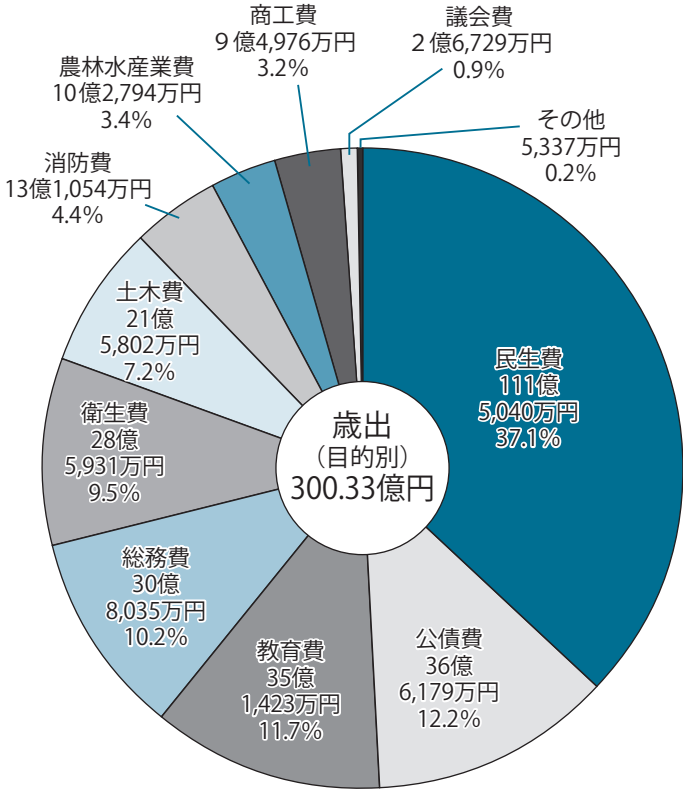
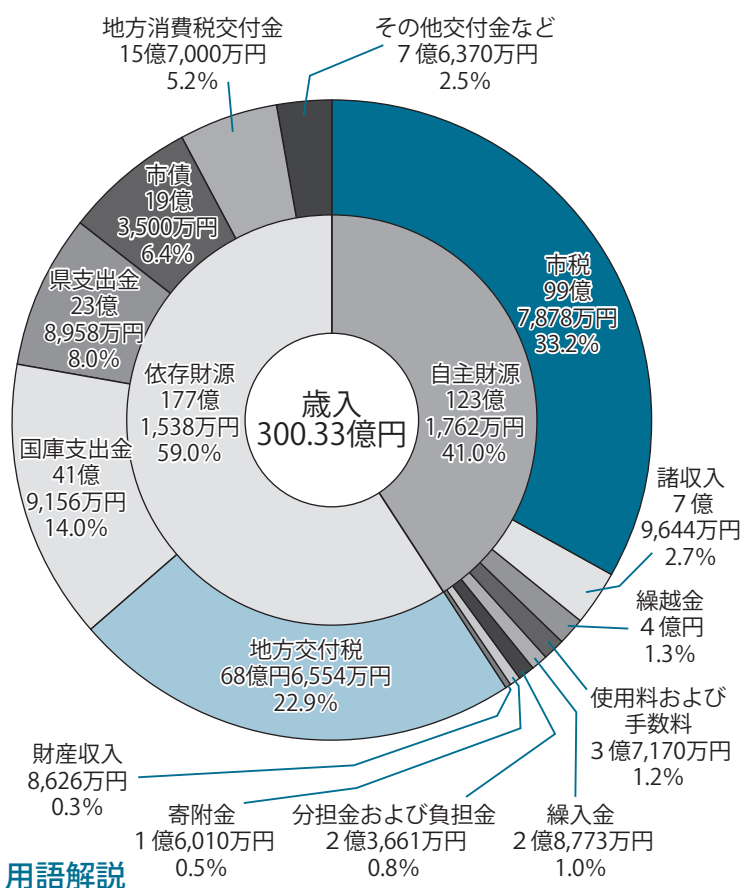
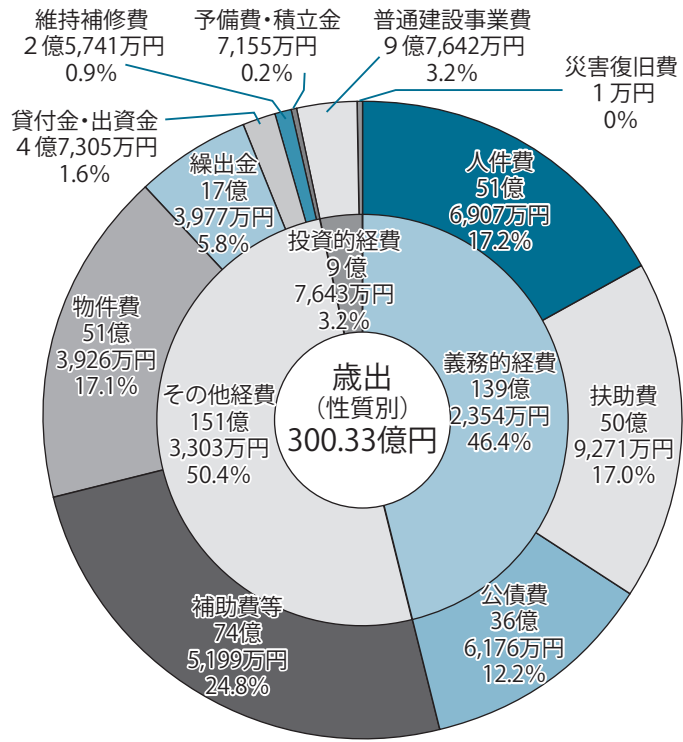
『先憂後楽明るい未来創生予算』を編成！
令和3年度当初予算の概要

一般会計当初予算額は「300億3千3百万円」

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況でのスタートとなりました。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響による歳入の減少など、前例のない厳しい状況が続くことが予想されるため、「入るを量りて出ざるを制す」という財政運営を基本に、コロナ禍や財源不足といったピンチを乗り越えるため、昨年度に引続き大胆な行財政改革に取り組み予算編成を行いました。

一般会計の当初予算は、大田原中学校校舎増改築事業費の減額、広域クリーンセンター大田原、共同一般廃棄物最終処分場整備事業負担金の減額、新規事業の凍結、全事業の再精査による経費の削減により、予算規模は、前年度と比較して11.3%減の300億3千3百万円となりました。

歳入の大部分を占める市税は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、前年度と比較して7.0%の減額を見込んでおり、市債についても、防災行政無線整備事業、大田原中学校校舎増改築事業等の事業費の大幅な減額により前年度と比較して43.2%の減額を見込んでおります。また、地方交付税についても対象となる事業の事業費減額に伴う震災復興特別交付税の大幅な減額により、前年度と比較して14.8%の減額を見込んでおります。

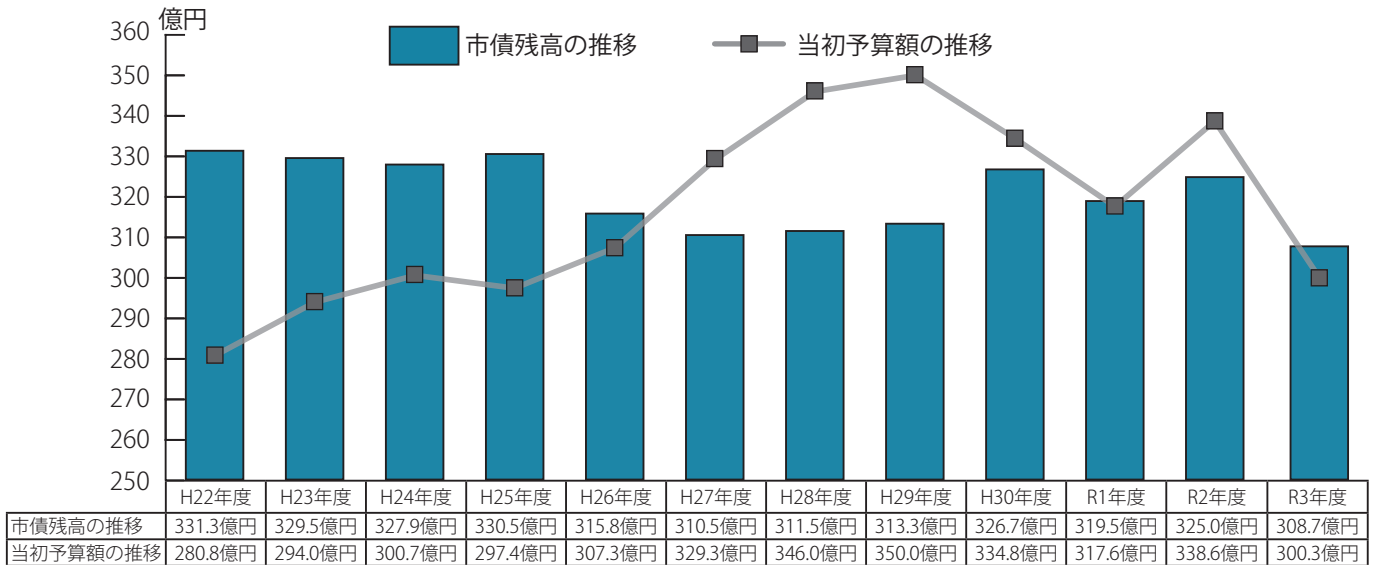


用語解説

【歳入】
自主財源…市が自主的に収入できる財源
依存財源…国や県などから交付されたり、割り当てられたりする財源
市税…市民税、固定資産税、軽自動車税など、市に納めていただく税金
繰入金…他会計や基金(預金)などから一般会計に繰り入れする資金
繰越金…前年度の余剰金など
財産収入…市の財産の貸し付けや売り払いによる収入
地方交付税…市の財政が一定水準を維持できるよう、国から交付されるもの
市債…公共施設の建設などのために、国や金融機関から借り入れるお金

【歳出(性質別)】
人件費…市長、市議会議員などの報酬や一般職員の給料など
扶助費…生活保護、児童福祉、高齢者福祉など要援助者に支出する経費
公債費…借り入れをした元金や利子の償還金
普通建設事業費…道路、学校、公共施設などの建設経費など
災害復旧費…災害を受けた施設などを復旧するための経費
補助費等…各種団体などへの負担金や補助金、報償金など
物件費…消耗品費、光熱水費、委託料、使用料など
繰出金…一般会計から特別会計や企業会計へ支出される経費
貸付金・出資金…各種団体などへの貸付金、出資金
維持補修費…施設維持のための補修費
予備費…用途を特定しないで計上し、不測の事態に対応するための経費
積立金…各種積立金

■一般会計の当初予算額と市債残高の推移



※市債残高は、令和元年度までは決算額、令和2年度は決算見込額、令和3年度は当初予算額です。

■特別会計・企業会計

特別会計は、前年度と比較して4億9,585万円の減額となりました。減額の主な要因として、介護保険特別会計において第8期計画における給付等の見直しによる予算規模の縮小などがあげられます。

企業会計は、前年度と比較して7,050万円の減額となりました。減額の主な要因は、水道事業会計においては配水設備工事費(水道管布設工事費等)が減少したことなどによる減額、下水道事業会計においては資本的支出の委託料(設計・調査)と管渠布設工事費の減額によるものです。

※下水道事業特別会計と農業集落排水事業特別会計は、令和2年度より下水道事業会計(企業会計)となりました。

特別会計	当初予算額	前年度比
国民健康保険事業費	81億400万円	2.2%増
介護保険	68億6,700万円	8.7%減
子育て支援券	2,050万円	32.8%減
後期高齢者医療	7億3,830万円	1.3%減
須賀川財産区	95万円	20.8%減

企業会計	当初予算額	前年度比
水道事業	27億4,500万円	1.3%減
下水道事業	31億3,000万円	1.1%減

■地方消費税交付金が充てられる経費の状況

消費税および地方消費税の税率が5%から引き上げられた分(2014年4月に8%へ、2019年10月に10%へ)の税収は、地方公共団体へ分配され、社会保障4経費(年金、医療、介護、子育て)やその他の社会保障施策に要する経費に充てられます。

本市の令和3年度の交付見込額は8億5,636万円で、充当予定は右表のとおりです。

社会福祉費(障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉、母子福祉、生活保護など)	3億5,794万円
社会保険費(国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療など)	4億1,200万円
保健衛生費(母子保健、妊産婦健康診査、地域医療、予防接種、健康診査など)	8,643万円

よいち家・1か月の家計簿 ¥

家庭の家計と市の財政では、規模もお金の使い道も違うため、単純に比較はできませんが、令和3年度一般会計当初予算(300億3,300万円)を、県内で平均的とされる年収480万円(1か月あたり40万円)の世帯に例えてみました。

収入面では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国税、県税として集められた税の地方への配分はほとんどが減額となっていますが、新型コロナウイルス感染症対策による軽減分の措置等の補填があるため「親からの仕送り(地方交付税・補助金など)」が増額となっていることや合併後初めて財政調整基金からの繰入れを行わなかったため「貯金の取り崩し(繰入金)」が減少しています。支出面で「家・車などの修理・買い替え(普通建設事業費など)」が減少しているのは、大田原中学校校舎増改築事業において令和2年度で大部分の工事が終了したことや新規事業を凍結したことによるものです。また、「家・車などの修理・買い替え(普通建設事業費など)」の減少に伴い収入面の「借金(市債)」も減少しています。

()内は前年度比

入ってくるお金	合計 40万円(±0万円)	使うお金	合計 40万円(±0万円)
給料(市税)	13万3千円(+6千円)	食費(人件費)	6万9千円(+5千円)
パート収入(使用料など)	8千円(±0千円)	家族の医療費(扶助費)	6万8千円(+1万7千円)
親からの仕送り (地方交付税・補助金など)	21万(+1万2千円)	ローンの返済(公債費)	4万9千円(+8千円)
貯金の取り崩し(繰入金)	4千円(△7千円)	光熱水費などの雑費(物件費など)	6万9千円(+8千円)
借金(市債)	2万6千円(△1万4千円)	知人への援助費など(補助費など)	9万9千円(△4千円)
その他	1万9千円(+3千円)	家・車などの修理・買い替え (普通建設事業費など)	1万6千円(△3万6千円)
		子どもたちへの仕送り(繰出金)	2万3千円(+1千円)
		貯金や知人への貸付など (貸付金・積立金など)	7千円(+1千円)